

令和元年ホヤ類調査結果速報 No. 5

令和元年 10月 23日

北海道立総合研究機構函館水産試験場

※この速報は函館水試HPでも見ることができます。

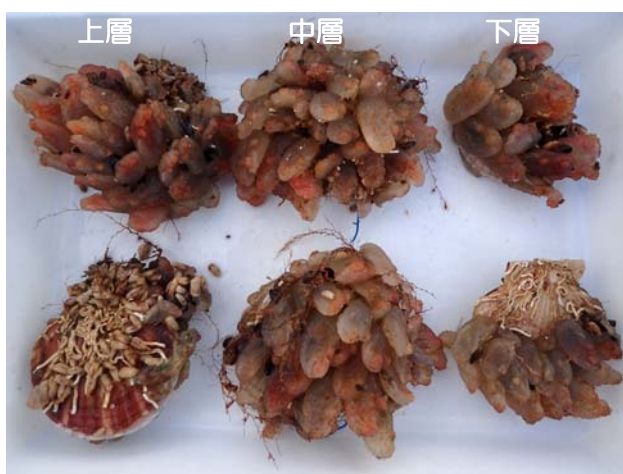
【アドレス：<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>】

10月17日に渡島管内八雲地区において、耳吊ホタテガイ付着物の調査を行いました。

結果概要

- ヨーロッパザラボヤ（図1）の付着個体数はホタテガイ1枚あたり48.1個体でした（表1）。過去5ヶ年の平均と比較するとやや多いです（図3上）。
- ヨーロッパザラボヤの付着重量はホタテガイ1枚あたり93.5gでした（表1）。付着重量は過去5ヶ年の平均と比較するとほぼ同じです。今後、付着個体の成長により付着重量は増加すると見込まれます（図3下）。
- 5mm未満の個体はほとんど見られず、新たに付着した個体は少ないと考えられます（図2）。成熟の目安となる25mm以上の個体の割合は約5割で、成熟個体が増加していると考えられます。
- 今後、付着重量の増加および耳吊り貝上のヨーロッパザラボヤの繁殖が懸念されることから、付着量が多い地区では状況に応じて、貝洗い等の対応を進めて下さい。

図1 ホタテガイに付着するヨーロッパザラボヤ 令和元年10月17日 八雲地区



問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部 金森・夏池
TEL:0138-83-2893 FAX:0138-83-2849

※この調査は北海道ほたて漁業振興協会からの委託研究により実施しています。

1：耳吊りホタテ貝付着物調査

【調査月日：10月17日、調査場所：八雲沖、採取数：上中下層 各5枚】

ホタテガイを上層、中層、下層から5枚ずつ抽出し、肉眼及び実体顕微鏡を用いて、付着物を調査しました（図1）。ヨーロッパザラボヤの平均付着個体数はホタテガイ1枚あたり48.1個体、平均サイズは26.3mmでした（表1、図2、図3上）。付着重量はホタテガイ1枚あたり93.5gで前回（9月18日：37.9g）から2倍以上に増加しています（表1、図3下）。成熟の目安となる25mm以上の個体の割合は54%で、今年付着したヨーロッパザラボヤも一部繁殖を始めていると推測されます（図2）。

来月以降、付着重量は急激に増加していくと考えられます（図3下）。出荷時期（12～4月）にホタテガイ1枚あたり10個体残っているだけでも、ホタテガイを上回る重量となり、成長にも悪影響が出ます。また、ホタテガイ上で成熟した個体が繁殖することも新たな付着につながると考えられます。各地区の状況に応じて、貝洗い等の対応を進めてください。

表1 付着生物調査結果（八雲地区：令和元年10月17日）

ホタテガイ1枚あたり平均付着数量	上層	中層	下層	平均
全付着物重量	157.2g	232.9g	116.6g	168.9g
ヨーロッパザラボヤ	66.8g	147.6g	66.2g	93.5g
その他	90.4g	85.3g	50.4g	75.4g
ヨーロッパザラボヤ個体数	41.8個体	64.8個体	37.6個体	48.1個体
平成30年10月（H30.10.15）の個体数	19.6個体	13.8個体	20.0個体	17.8個体
平成29年10月（H29.10.18）の個体数	12.4個体	64.4個体	51.4個体	42.7個体
平成28年10月（H28.10.18）の個体数	27.0個体	64.0個体	50.0個体	47.0個体

図2 ヨーロッパザラボヤのサイズ組成（八雲地区：令和元年6月～10月）

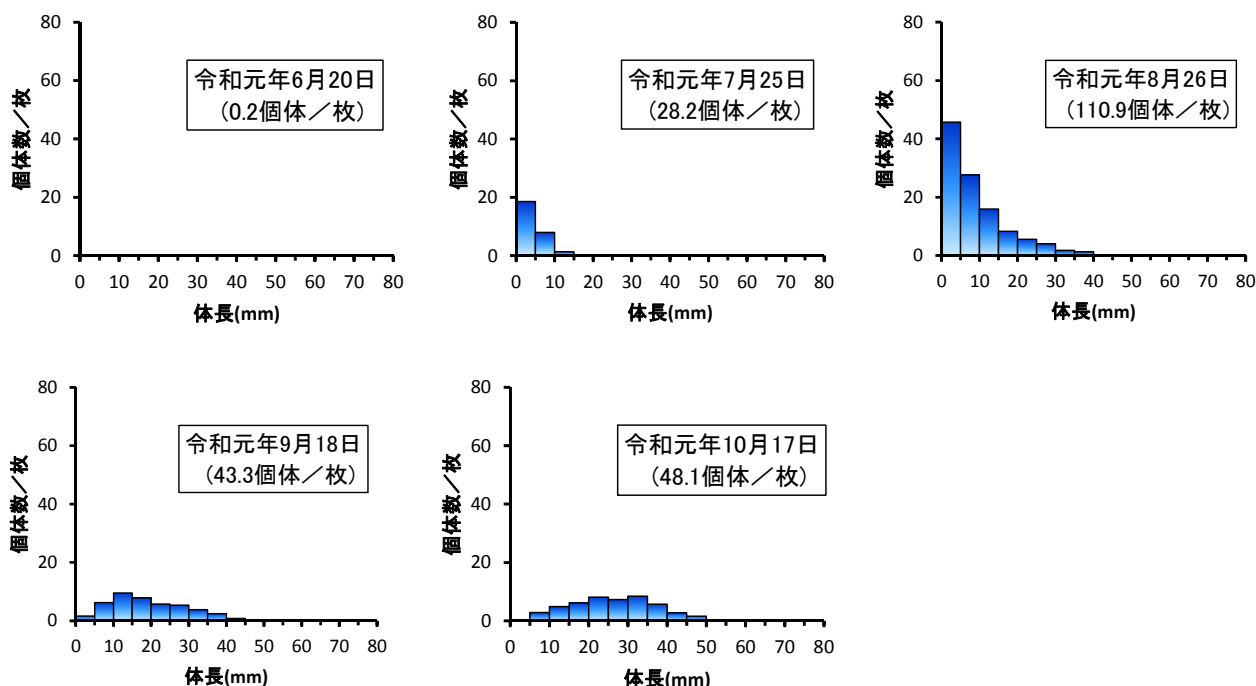
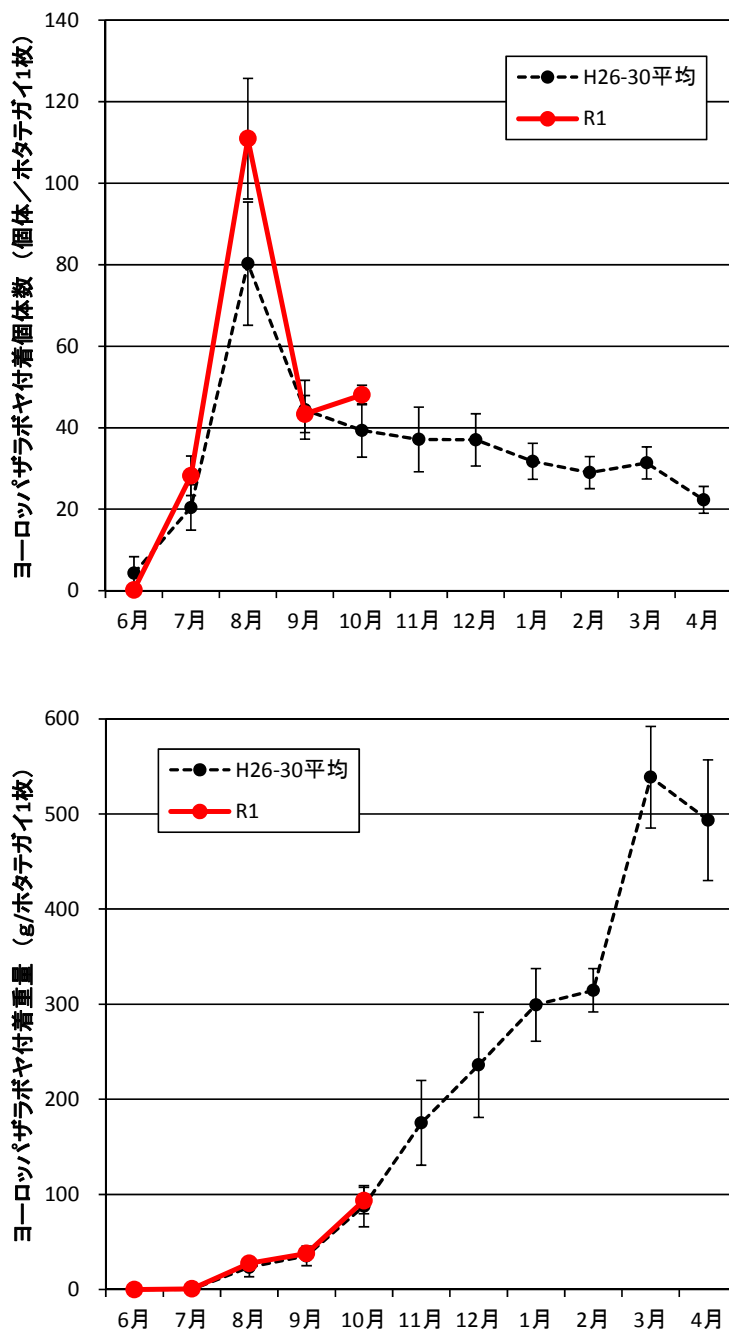


図3 ヨーロッパザラボヤ付着量の季節変化（八雲地区）



上図：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着個体数の季節変化

下図：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着重量の季節変化

各月のデータは全層（上層、中層、下層）の平均値で示しています（縦棒は標準誤差）。過去5ヶ年（H26～30年）のデータでは、ヨーロッパザラボヤのホタテガイへの付着は7～8月が中心となっています。付着重量は10月～翌1月にかけて急激に増加します。今年は10月としては平年並みの付着重量となっていますので、今後も平年並みに重量が増加していくと考えられます。